

日本古来の宗教（民俗宗教）と キリスト教宣教

〈なぜキリスト教は、日本人に受け入れられて来なかったのか〉

プロフェッショナル講座（4）

日時：2018年9月23日（日）13：30～

場所：目黒カベナント教会 1階

講師：勝本正實（新秋津キリスト教会 牧師）

命題 キリスト教の宣教の歴史において、日本宣教ほど難しい国は例が少ないと思います。これまでにどれほどの熱意を持った多くの宣教師が送り込まれ、祈りがささげられ、資金がつぎ込まれてきた事でしょう。日本という国の精神風土とキリスト教の体質がうまくかみ合わない事を念頭に、この国の宗教観を学びます。特に日本古来の宗教である民俗宗教とそれを土台として生まれた神道を念頭に置いて学びましょう。

序論 170年かけて1%とは

本論1 避けられる日常生活上の理由

本論2 避けられる信仰内容（教義）上の理由

その1 キリスト教で語る神は、「唯一の真の神」です。

その2 キリスト教では、「キリスト以外に救いはない」と語ります。

その3 民俗宗教（そこから生まれた神道）においては、救い自体が必要ではありません。

本論3 避けられる馴染みにくさからの理由

その1 教会はこれまで、地域に向かって積極的に関わることを避けてきました。

その2 明治以降の宣教師たちは、熱意と信仰を持って「日本宣教」を目指しました。

本論4 避けられる価値観上の理由

その1 日本では昔から、宗教は上から押し付けられてきました。

その2 宗教に対する偏見や誤解が、人をキリスト教や宗教全体から遠ざけています。

まとめ 日本のキリスト教のするべき工夫

質疑応答の時間もありますので、ぜひお越しください。